

●体型と馬体重

競走馬の距離適性には、体型が関係すると考えられている。短距離競走を得意とする馬は胴が短く、筋肉質であるといわれる。長距離競走を得意とする馬は胴が長くスマートな体型であるといわれる。このような体型から考えると短距離に適した馬の体重は重く、長距離に適した馬の体重は軽いのではないかと考えられる。また、競走馬の体重は、体型だけでなく、年齢、性別、出走する競走の馬場の種類にも関係する。それでは、実際はどのような体重分布なのだろうか。平地競走出走馬を馬場の種類、性別、年齢別に分け、それぞれのグループの平均体重を距離別に計算した。

図に年齢別、出走距離別の出走馬平均馬体重の典型例を示す。グラフから、2、3歳馬で短距離競走へ出走した馬は体重が軽く、出走した距離が長くなると体重の重い馬が出走していたことが分る。しかし、成長するにつれて、このような傾向は見られなくなり、逆に5歳以上では、短距離競走出走馬では体重が重く、長距離では軽くなる傾向がみられた。また、このような出走馬の平均体重の分布は、芝競走、ダート競走、およびオス、メスに共通して見られた。

●短距離競走出走馬と馬体重の関係

この結果で示された2、3歳では短距離競走出走馬の体重が軽いということは、体型から考えられた短距離競走では馬体重が重いという予想と異なる。しかし、成長するにつれて短距離競走出走馬の体重が軽い傾向は見られなくなることから、競走を勝ち抜いて出走を続けることのできる馬の体重分布は全出走馬を対象とした分布と異なり、体重の重い馬が短距離競走でよい成績を収めているため、徐々に短距離競走出走馬の平均体重が重くなっている可能性が考えられる。そこで、1着馬のみを対象として同様に出走距離別の平均馬体重を計算した。その結果、すべての出走馬を対象とした出走距離別の体重よりも全体的には重かったが、若い馬では短距離出走馬

で体重が軽く、成長につれて差がなくなり、5歳以上では短距離出走馬で重くなる傾向は同様であった。これは、短距離競走で成績の良い馬を選抜することで、短距離競走出走馬の体重が重くなるのではないことを示している。

以上のことから、2、3歳の若い馬では、短距離競走への出走は体重の軽い馬、または軽い体重に関係する要因、例えば走行中の動きなどで選択されている可能性が考えられた。一方、5歳以上では、逆に短距離競走で体重が重く、長距離競走で軽くなる傾向が見られた。これは、これまでの実績など、走行中の動き以外の要因から、各馬の距離適性が見極められるようになったためかもしれない。または、体重の重い馬は出走できる状態に仕上げるまでが難しく、時間がかかるともいわれる。さらに、体重が重いと、骨折や浅指屈腱炎などの怪我をする危険性が高いことが分かっている。そのため、体重が重い馬は、持っている能力を発揮するまでに時間がかかり、5歳以上になってから短距離適性を見出され、短距離競走に出走することが多くなっている可能性も考えられる。

■ ショート ▨ マイル ▩ インターメディアート □ ロング

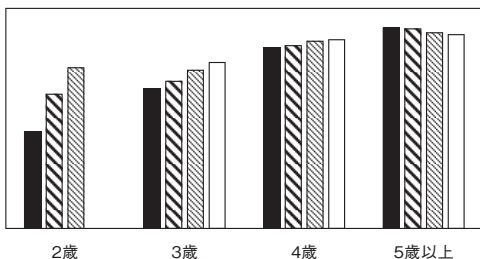


図 年齢別、出走距離別の出走馬平均馬体重の例
(ショート:1,000-1,300 m、マイル:1,301-1,899 m、
インターメディアート:1,900-2,100 m、
ロング:2,101 m以上で分類)